

※解答はすべて解答用紙に記入しなさい。問いに字数の指定がある場合は、句読点や記号も一字に数えて解答すること。

一 次の[A]の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、①～④は段落の番号です。

A

法<sup>(1)</sup>

① インゴルドの人類学のとらえ方がユニークなのは、そこであえて人類学者が人間のことを研究するのは、客観的な知識を生み出すデータを集めるためではない、と言い切っているところだ。

② 人間が生きる営み<sup>①</sup>は、無数の要素との関わりあいのなかで可能になっています。その一部をデータとして切りとって分析して、知識を生みだし、他の人にあてはめてみたところで、それがそのまま他の人の生活に役に立つわけはありません。

③ もちろん、世の中にはそんな「知識」があふれています。仕事を効率よくこなすための方法とか、お金を儲ける方法とか、恋愛がうまくいく本とか。あげだすときりがなくらい、そういうマニュアル的な知識はみなさんの身の回りにもたくさんあると思います。それを知ってうまくやれた、という人もなかにはいるでしょう。

④ ①でも、人間の生はそれぞれに固有の文脈のなかにあります。あなたとその隣にいる人は、何から何まで違います。生まれ育った環境も、好きな食べものも、ファッションの好みも、身体的にも、性格も、程度の差はあれ、違いだらけです。

⑤ なので、あなたにとって役に立った知識が、そのまま隣の人にあてはまるとは限りません。①「恋愛を成就させる方法」という知識があったとして、あなたが好きになる人と、隣の人が好きになる相手が一緒とは限りません(同じ人を好きになったとしたら、なおさら二人とも恋愛を成就させるのは困難なわけですが)。相手が変われば、どうアプローチすればいいのかが変わるのはあたりまえですし、見た目も性格もさまざまな人が同じやり方をしてうまくいくわけがありません。

⑥ 人間に関する「客観的な知識」と言われるものは、そのほとんどが一般的な話ばかりです。ふつうはこういうことが好まれるとか、そう考える人が多いとか。たとえ、それが九〇%の人にあてはまったとしても、目の前の人がその九〇%に入るのか、残りのあてはまらない一〇%に入るのか、わかりません。あなたにとって大切なのは、一般論ではなく、特定の相手に受け入れてもらえるかどうかという個別で具体的な現実です。

⑦ だからこそ、インゴルドは、人間の生の営みを「データ」といったかたちでその固有で差異に満ちた現実の文脈から切り離したら意味がなくなる、と主張しているのだと思います。ある人の生きている経験は、どこまでもその人の生の文脈のなかでとらえ、考えていく必要がある、と。

⑧ そんなのまったく学問じゃない、と言われそうですね。そうなんです。インゴルドが考えている人類学のあり方は、既存の学問とか科学の枠組みから大きく逸脱しています。まったく正反対とも言えます。すべての人類学者がそれに賛同しているわけでもありません。

⑨ でも、彼の語っている言葉には、学問って何か、教育によって人が成長するってどういうことかを考えさせるヒントがあります。もう少し彼の言葉に耳を傾けてみましょう。

⑩ 二〇一八年に翻訳された『ライフ・オブ・ラインズ』(フィルムアート社)という本でも、インゴルドは人類学と教育の関係について書いています。

⑪ そこでインゴルドは、これまでの一般的な学校の教育と、彼が考える教育とを明確に区別しています。ふつう教育とは学ぶ人を生きられている世界それ自体へと導き出すことだと思われています。でも、彼はそうではなくて、教育とは学ぶ人を生きられる世界それ自体へと導き出すことだと書いています。

⑫ 学校教育で教えられ、覚えるべきとされている知識は、あらかじめ定められています。日本でもそうですが、多くは国が決めています。②、それはインゴルドに言わせれば、ある社会が定めるルールや望ましいとされている秩序といった「意図にもとづく世界」に引っぱり込んでいくに過ぎないのです。そこでの「世界」とは、さきほど書いたように、それぞれの生きている文脈に関係なく、一律に誰もが知っておくべきものと定められた知識で構成されている、架空の「世界」です。

⑬ インゴルドが人類学の教育的な潜在力を考えるときに想定しているのは、その人の生きている現実から離れた一般的な知識を頭のなかに詰め込むのではなく、あくまで個別具体的な経験の世界へと導き出すような教育です。そこで必要なのが、知識で武装するのではなく、目の前に生じている経験の世界に慎重に注意を払うための方法です。

それを説明するために、インゴルドは、「ラビリンス「迷宮」と「メイズ迷路」というたとえを使っています。そのふたつはどう違うのでしょうか？

14 わかりやすい「迷宮」のイメージとして、インゴルドは、登下校時の子どもたちの歩みを例にあげています。子どもたちは、通学路を注②俯瞰的にみて目的地に最短ルートを進むのではなく、驚きと発見に満ちた曲がりくねりとしてとらえて歩いているはずだ、と。

15 最近の日本の小学校は通学路が決められていて、そこからはずれたり、道草をしたりしてはいけない、と指導されることも多いのですが、子どもは本来、大人たちが定めたルートをそれで道草するのが大好きです。

16 一方、都市で働いている大人たちは、ある地点から目的地に向けて、ナビに従って最短ルートを進むように歩きます。そこであらわれる道が「迷路」です。目的地に速やかに到達することしか頭になく、誰かに話しかけられて足が止まったり、ルートとは違う道に入り込んでしまったりすること、いずれもある種の「失敗」として経験されます。

17 迷路を進むとき、私たちはゴールにたどり着くという意図をもって進みます。意図が先にあって行動はその結果に過ぎません。それはあらかじめ意図され、決められた知識を覚えるのと似ています。覚えることが目的であって、できれば最短で簡単に覚えられればそれにこしたことはありません。本来は、最短ルート以外にもいろんな道の選び方があるわけですが、その②フクスの選択肢は、いずれも目的地にたどり着くという目的から逸れるという意味で、迷路の「行き止まり」と考えられています。

18 「迷宮」の道をたどる子どもたちは、たとえば道に不思議な虫がいれば、足を止め、じっとそれを観察するでしょう。そうやってその虫を追いかけているうちに、脇道に入り込むかもしれません。その瞬間、子どもたちにとって目的地である「学校」や「家」にたどり着くことは頭から消えています。迷路を進む大人たちが目的地に向かうこと以外に関心を払わず、行先以外は視界にも入らなくなるのとは③タイショウ的③です。

19 インゴルドは、そういう意味で、迷宮が世界に対して開かれているのに対して、迷路は閉じている、と書いています。迷路を進むとき、できれば最短で目的地に到達したいので、その途中で起きる出来事は、すべて余計なことだし、ないほうがよいものになります。そのとき、迷路の歩行者は世界にとって存在しないも同然なのだ、とインゴルドは言います。

20 これを読んだとき、私は日本の都会の通勤電車のことを思い浮かべました。通勤電車が毎日楽しいという人はめったにいないでしょう。電車のなかでは、みんな携帯を見つめるばかりで、周囲に注意を払ったり、隣の人とおしゃべりを楽しんだりする乗客はほとんどいません。ぎゅうぎゅうの満員電車ならなおさらそうです。一刻も早く目的地に着いてほしいと、外の世界への意識や感覚を麻痺させて、じっと自分の殻に閉じこもってその時間が過ぎ去るのをこらえる。そのとき、「わたし」という存在は世界に対して閉じていて、存在そのものが世界から失われていると言えるかもしれません。

21 寄り道をしなから、周囲のことに注意を払い、感覚を研ぎすまして驚きと発見のプロセスを楽しんでいる子どもたちと、なんと違うことか、ちよつと目眩がするくらいの距離です。

22 インゴルドは、迷宮の歩みは、目的地にたどり着こうといった「インテンション意図」にもとづくのではなく、たえまない周囲の世界への「アテンション注意」にもとづいている、と書いています。そうやって自分の周りに注意を払いながら歩む者は、世界と対話し、影響を与え合い、自分も周囲も少しずつ変化させていきます。だから、世界のなかに確実に存在しているのです。

23 ちよつと抽象的な書き方なのですが、インゴルドが迷宮と迷路の対比から言おうとしている違いは、ぼんやりとわかると思います。この二つの対比は、そのまま知恵と知識の対比とも重なります。

24 学校教育が意図をもってあらかじめ用意された「知識」を教え込むこととしたら、どうやって生きていくか、その歩みのなかでそれぞれが自分や周囲のことに目を向け、その観察と対話をおして、生き抜く方法を見いだしていくことが「知恵」なのです。

(松村圭一郎「これからの大学」による)

注(1) インゴルド：イギリスの人類学者、ティム・インゴルド。人類学とは、人間を研究する学問のこと。

(2) 俯瞰：高いところから広く見渡すこと。

国語問題

問一——線部①の漢字の読みをひらがなで答え、②・③のカタカナは漢字に直しなさい。

問二 本文中の 1・2 に入れるのに適当な言葉を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア でも
- イ なお
- ウ たとえば
- エ つまり

問三——線部(1)とありますが、ここで筆者はどのようなことを言おうとしていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 人にはそれぞれ生まれ持った宿命があるので、客観的な知識を学ぶことは無意味であるということ。
- イ 人はそれぞれ異なる存在なので、お互いを理解するための知識はなかなか身につけられないということ。
- ウ 人が生きることには無数の要素が関係しているので、どの要素もそれぞれ重要であるということ。
- エ 人はそれぞれ置かれている状況が異なるので、客観的な知識を自分に当てはめても役に立たないということ。

問四——線部(2)とありますが、そのように言う人は、学問とはどのようなものだと考えているのですか。これより前の本文の言葉を用いて二十五字以内で説明しなさい。

問五——線部(3)とありますが、迷路を進むときに歩行者が「世界に対して閉じている」とはどういうことですか。解答欄の形式に従って「意図」「途中」「存在」の三語を必ず用いて説明しなさい。

問六——線部とありますが、インゴルドの考える「教育」とは、どのような力を育てようとするものですか。その考えが最もよく表れている段落番号を答えなさい。

問七 【A】の文章に関連して、次の詩と【鑑賞文】を読んで後の問いに答えなさい。

練習問題

阪田 寛夫

「ぼく」は主語です  
「つよい」は述語です  
ぼくは つよい  
ぼくは すばらしい  
そうじゃないからつらい

「ぼく」は主語です  
「好き」は述語です  
「だれそれ」は補語です  
ぼくは だれそれが 好き  
ぼくは だれそれを 好き  
どの言い方でもかまいません  
でもそのひとつの名は  
言えない

【鑑賞文】

ぼくは つよい  
ぼくは すばらしい

この第一□の例文は、生身の「ぼく」とは無関係に成り立つ、ただの一般的な表現にすぎない。

しかし、それを血の通った現実の「ぼく」にあてはめて口にしたとたん、それは意味のある具体的な表現へとがらりと変貌する。現実世界の「ぼく」はつよくもすばらしくもないと自覚しているから、「つよい」や「すばらしい」という自己評価の言葉が「つらい」ものとして突き刺さってくるのだ。一般から個別への視点の転換によって、ぬっと立ち現れる感情がおもしろくてせつない。

第二□には、

ぼくは だれそれが 好き  
ぼくは だれそれを 好き  
ぼくは だれそれを 好き

という例文が登場する。たやすく口にはできるのはあくまでもそれが一般的な表現だからだ。ところが、現実世界の「ぼく」が発するとなると、「だれそれ」が具体的な人物の名前としてむき出しになる。その名をおいそれと明かすことはできない。読者の誰もがその「ぼく」の恥じらいに共感することだろう。これまた一般から個別への視点の転換によってたちどころに顔を出す感情が、なんとも甘酸っぱくてくすぐったい。

詩人はいたずらっぽい表現によって、二つの世界を飛躍する面白さを教えてくれる。

- (I) 鑑賞文中の□に共通して入る適当な言葉を漢字一字で答えなさい。
- (II) 詩の中に練習問題としてあげられている例文は、【A】の文章に当てはめると、どのような世界の言葉だと思いますか。【A】の文章中の⑩以降の段落から六十字以内で探し、最初と最後の五字を抜き出して答えなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

橘陽菜子の娘である風花は小学四年生で、戸部松乃進の娘である小町に勧誘され、ボクシングジムに通っている。そこで星矢と未来の母娘と知り合いになり、家族ぐるみで親しく付き合うようになった。

「ウチじゃあ、他人様と喧嘩をするために、ボクシングを教えているんじゃない。ズブの素人に手をだすなんてもつてのほかだ、破門だ破門つて、それはもうオーナーつたらすごい剣幕だったんスから」

星矢自身、怒っているようだ。鼻息が荒く、Aが吊り上がってもいる。彼女の怒りの対象はオーナーの松乃進にちがいない。ノーメイクの彼女は童顔で、実際の年齢よりも五歳は若く見えた。マクドナルドなどで学校の先生の悪口をいう女子高生みたいだ。着ているのはトレーニング用のウェアで、ダイニングの椅子に片膝立てて座っているのは、ヤンキーの頃の名残かもしれない。

ふだんであれば風花は四時にジムへいく。だが今日は五時過ぎで、星矢が先にいて、トレーニングをはじめていたらしい。そして娘がジムに入るなり、松乃進が怒鳴りつけたというのだ。

「傍で見てたあたしもビビりました。オーナー室にいた未来も飛びだしてきて、あたしにしがみついてきて、オイオイ泣きだしちゃつて」

その未来ちゃんもいた。リビングで風花とむきあい、お互い険しい顔になっている。そのあいだには、どうぶつしようぎがあつた。なぜいまそれを、と思わないでもなかったが、とりあえずは星矢の話聞くのが先だ。

「そのあと風花ちゃんがなにを言ってもオーナーは聞きやしません。小町さんがいくら宥めても駄目でした。ついに風花ちゃんがジムを飛びだしてしまって、あたしと未来で慌てておっかけて、こうしてウチまでついてきちゃったわけなんです」

「助かったわ。ありがとう」

「礼にはおよびませんよ。あたしも未来も風花ちゃんが心配だったものですから。ねえ、未来」

「マツノシンがフーカをハモンにしたから、ミクもマツノシンをハモンだ」

未来ちゃんも星矢とおなじく鼻息が荒かった。だが破門はさておき、陽菜子には気になることがあった。

「ねえ、風花。あなた、だれと喧嘩したの？」

「それ、あたしも聞いてなかったんスよね」星矢が言う。なんだか興味深げだった。

「六年生の男子三人とだよ」娘は静かに答えた。「未来ちゃん、そこにウサギのコマを置いたら、あたしがニワトリでライオンをとっちゃうよ」

「ほんとだ。もどしていいか」

「いいよ。つぎはもう教えないからね」

「わかった」

「年上の男とやりあったつてこと？」これまた星矢だ。「ボクシングで？」

「ひとりのワキバラにボディブロー、べつの子の顔に右ストレート、最後に織田つてヤツが、かましてきた左ストレートをよけて左アッパーを打ったんだけど、かわされたところに先生がきたんだ」

ヒュウウと星矢が口笛を鳴らし、「やるじゃん、風花ちゃん」と両手の人差し指で、娘を指差した。

「オダつてネコをたすけていた、あのオダか」

「そうだよ。ネコは助けても、ひとをいじめるあの織田」

「ヒヤッキンで会ったあの子？」陽菜子も訊ねた。

「そう、その織田。織田はんこの息子。今日の昼休みもおなじクラスのふたりとツルんで、三年生をイジメていたか

ら、それがゆるせなくなって注意したんだ」

そのあとに起きたことを娘は話した。丁寧ていねいに理路整然としており、わかりやすかった。B、娘がしたのは人助けではある。だが親としては、ひとに暴力をふるったことを褒めそやすわけにはいかない。しかもそれだけではなかった。娘は自分勝手にワガママな織田はんこの子をやっつけるためにボクシングを習っていたというのだ。

「ごめん、ママ」

声のトーンと表情からして、娘が言葉だけではなく、心の底から反省しているのが陽菜子にはわかった。

「二度とこんなマネはしない。オーナーがあたしを破門にするのも当然だ。ひとをなぐるつもりでボクシングをして、ほんとになぐっちゃったわけだし」

「でも織田は殴なぐらなかつたわけじゃない？ それでいいわけ？」

星矢ときたら、織田も殴るべきだったと言わんばかりである。

「いいんだ、もう。ひとをなぐってみて、わかつたんだ。ちつともたのしくなかつたし、気持ちよくなかつた。破門になつてよかつたくらいだ」

(1) ちがう。そうやって娘は自分に言い聞かせているだけだ。これも C 声のトーンと表情でわかつた。でもそれを陽菜子は指摘してましないでおいた。ただし代わりにこう訊ねた。

「ボクシングはやめるの？」

「そのつもりだけど」

(2) 「でもあなたはまだ、試合どころかスパリングもしていないんでしょ」

娘は陽菜子の顔をじっと見つめている。母親がなにを言うつもりなのか、考えているにちがいない。

「それってつまりあなたはまだ、ボクシングを知らないってことじゃない？ それでいいわけ？」

「あたしが知らない子となぐりあうなんてって、ママ、いやがつてたじゃん」

「それはママの意見。あなたはどうなんだって話」

娘は眉間まゆげんに皺しわを寄せる。その小さな頭の中では、あらゆる思いが猛スピードで巡めぐっているにちがいない。だがその

口から、 D 答えはでてこなかつた。

「フーカッ。オーテだ」

「ちがうよ。うらになつたネコは、ななめうしろには動けない」

「あつ、そっか」

未来ちゃんに間違えまちがを教えてから、娘はアラタめて陽菜子を見た。

「あたしがボクシングをつづけるとしてだよ。試合をすることになつても、ママは反対しない？」

「しない。約束する」

子どもがやりたいことは必ずやらせる。

〈子どもを育てるための五か条〉だ。

「あたしが証人になつてあげるよ、風花ちゃん」

星矢がにやつきながら言う。

「ボクシングをつづけるんだつたら、これから先、あなたはどうしようと思つてる？ 破門を取り下げてもらう？」

だつたらママがジムについて、オーナーさんと話をしてもいいのよ」

「ナイスアイデアだ、陽菜子姉さん。風花ちゃんは全然悪くない、人助けにやむなく拳こぶしを使っただけッスもんね。オーナーだつて陽菜子姉さんが話せばわかつてくれますって。そうだ、あたしもいっしょにいつて加勢かぜしますよ。いきましょ、いきましょ。未来もいくよ」

「まだショーブがついていない」

未来ちゃんは動かない。どうぶつしょうぎの盤面を睨みつけたままなのだ。

「そこまでしなくていい」すでに腰をあげていた陽菜子と星矢に、娘が言った。「これはあたしの問題だもん。あたしがどうにかする」

「どうにかって、どうするつもり？」

陽菜子は訊ねた。せっかく娘の手助けができると思ったのに、本人に断られてしまい、戸惑いを隠し切れなかった。

「いまはわからない。だけどそれも自分で考えさせてほしいんだ」

<sup>③</sup>そう答える娘の顔は、すでに大人だった。

「なんでだ？」未来ちゃんだ。盤面から顔をあげ、娘を見上げていた。

「未来ちゃんが勝つには、この象さんを」

「ちがう。どうぶつしょうぎのことじゃない」

「だったらなにさ、未来」と星矢が訊ねた。

「なんでマツノシンはフリーカがケンカしたことをしてたんだけ？」

未来ちゃんの疑問はもつともだった。娘はジムへいくなり破門になったのだ。その前に、だれかが松乃進に報せにちがいない。

でもだれが？

その夜、たてつづけに四人から陽菜子のスマートフォンに電話があった。

「ほんとにごめんなさいね、橘さん。うちの父も一度言いだしたら聞かないひとで」トップは小町さんだった。星矢と未来ちゃんが帰ったすぐあとにかかってきた。「風花ちゃんはどうしてます？」

風呂を洗っているところだった。でも小町さんはそういうことを訊ねているのではあるまい。

「少し落ちこんでいるようには見えませんが、他にはべつに変わった様子はありません」

「キックキックトントン、キックキックトントン」

風呂場で娘が唄っている。調子っぱずれで、やけっぱちな歌声だった。

「ただ」

「ただ？」小町さんは心配そうに陽菜子の言葉を繰り返した。

「ボクシングはつづけていきたいと言っておりました」

「ほんとですか。よかったです。いえね、親父のことは嫌いになってもいいんですが、ボクシングを嫌いになられちゃかなわないと思っけていますね。わかりました。でもまあ、あの怒り様だと、冷静になるまで一週間から十日はかかるかもしれないんですが、風花ちゃんを許すよう、必ず親父をセツトクします<sup>③</sup>」

そのあと電話をかわってほしいと言われたので、風呂場へいき、娘にスマートフォンを渡した。娘は「はい、はい」と返事をするばかりで、しまいにはえらく神秘的な表情になっていた。

「小町さんになに言われたの？」

電話をおえてすぐ訊ねると、娘は表情を変えずにこう答えた。

「あなたのコブシがほえるのはリングの上だけだって」

拳が吼える。面白い喩えだ。小町さん独自のモノか、ボクシングの世界ではよく使うのかまでは、陽菜子にはわからなかった。

注 どうぶつしょうぎ…将棋を子ども向けにアレンジしたゲーム。

(山本幸久「あたしの拳が吼えるんだ」による)

問一——線部①の漢字の読みをひらがなで答え、②・③のカタカナは漢字に直しなさい。

問二——に入れるのに適当な、体の一部を表す漢字一字を答えなさい。

問三——とに入れるのに適当な言葉を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は二度以上使わないこと。

- ア やはり                      イ なるほど                      ウ どうせ                      エ なかなか

問四——線部(1)とは何ですか。指示する内容を答えなさい。

問五——線部(2)とありますが、このときの風花の気持ちを説明した次の文の・に入れるのに適当な表現をそれぞれ答えなさい。

はずなのに、  ことが腑に落ちなくて母親の真意を確かめたいという気持ち。

問六——線部(3)とありますが、陽菜子は風花のどんなところを大人だと感じたのですか。答えなさい。

問七——線部とありますが、これ以降、未来と風花が「どうぶつしょうぎ」をしている場面が続きます。その効果を説明したものととして**適当でないもの**を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 風花は破門されてショックを受けていたが、今は幼い未来を相手に優しく「どうぶつしょうぎ」を差してやるくらいに心の余裕を取りもどしていることを表す効果。

イ 真剣な話し合いの中に「どうぶつしょうぎ」の様子がときどき差しはさまれて、場面がちぐはぐなおもしろみを与える効果。

ウ 「どうぶつしょうぎ」に気を取られているふりをして、母親からの追及をのがれようとしている風花の計算高い一面を表す効果。

エ 星矢や母親と会話をしながらも、同時に未来の「どうぶつしょうぎ」の様子を見て誤りを指摘できる風花の冷静さや対応力を表す効果。

問八 本文を読んで、表現や内容について生徒が話し合いました。次の発言のうち、読みとりに**誤りを含むもの**の一つを選び、1～5の数字で答えなさい。

生徒1 「拳が吼える」という言葉が気に入りました。「吼える」は何かに向かってありったけの思いをふりしぼって吐き出す感じがして、弱いものいじめを許さない風花の強い正義感とびつたり合う気がします。

生徒2 なるほど。スピードの出たパンチがうなる音という意味だけじゃないんですね。私は未来がかわいいなと思いました。彼女の言葉には「カタカナ」が多く用いられていて、幼い感じがよく出ている気がします。

生徒3 この話は三組の親子が描かれていて、それぞれの親子関係がよく伝わりました。風花のお母さんの陽菜子さんが、風花のしゃべっている様子やお風呂で歌っている様子で、娘の気持ちにちゃんと気づいていてすごいと思いました。また、ジムのオーナーの松乃進の頑固なところを、娘の小町さんがカバーしているんだなと思いました。

国語問題

(一〇枚のうちの八枚め)

生徒4 そうですね。私は家族間のつながりも感じました。元ヤンキーの星矢さんが風花を心配して親切にしたり風花のしたことを面白がったりする場面や、お母さん同士で息が合っている場面を読むと、みんな仲がいいなと思いました。

生徒5 いろんな人の視点で書かれてあるから、それぞれの人の気持ちがよく分かって読みやすかったです。ボクサーの精神に反した風花を許さない松乃進が怒鳴る場面では、松乃進のボクシングに対する情熱を感じました。

Ⅲ 次の各問いに答えなさい。

(I) 次の文章の  ～  に当てはまるように後のア～エの文を並びかえたとき、  と

に入るものをそれぞれ記号で答えなさい。

動物にとって一番重要なことは、自分の力で生きることである。

猪は四六時中外敵を警戒しなければならぬから、眠っている間でも、心も身も緊張させている。

そこで豚は、荒く剛い毛も鋭い牙も失ってしまったのである。

(河合雅雄『望猿鏡から見た世界』)

- ア ところが、餌は山ほど与えられ、襲いかかる敵もない豚は、生きていくための努力は何も必要としない。
- イ 鋭い牙は伊達についているのではない。
- ウ 豚をとりまく環境は安全そのもので、危険の要素は一つもない。
- エ 山芋を掘るなどの食物あさりや、敵と戦うための武器として、なくてはならないものなのだ。

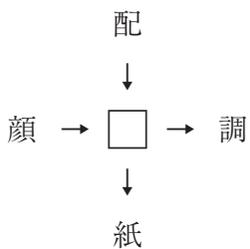
(II) 次の小問に答えなさい。

問一 次の四字熟語の  に共通して入る適当な漢字をそれぞれ答えなさい。



国語問題

問二 次の□に適切な漢字一字を入れて、タテヨコの熟語を完成させなさい。



問三 三字熟語を作るときに、□に「無」を入れることのできる熟語はどれですか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア □ 公開      イ □ 完成      ウ □ 理解      エ □ 安定

問四 次のことわざのうち、意味の異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 釈迦しゃかに説法  
イ 弘法こうぼうも筆の誤り  
ウ 河童かっぱの川流れ  
エ 上手の手から水が漏もれる

問五 —— 線部の言葉の使い方が正しいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 今日こんにちは遅刻ちこくをしたうえに忘れ物をして至いたれり尽つくくせりだ。  
イ 彼は優秀でクラスのみんなから一目置ひとかれている。  
ウ 仕事を頼たのまれているのに彼は喫茶店きっさで油あぶらを売うっていた。  
エ 「よかつたら遊びあそびにこないか」と釘くぎをさされた。

問六 —— 線部の敬語の使い方が正しいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 父が僕の進路しんろのことについて先生にお話お話になる。  
イ レストランに来店らいしたお客様が料理りょう理をいたたく。  
ウ 取引先とりのの社長が会議室かいぎしつにいらつしやる。  
エ 私は財布さいふを拾ひろってくれた方にお礼れいを申し上げた。

